

2021年3月29日

第8回エクセレントNPO大賞 「課題解決力賞」講評

1. 審査の視点

NPOは、コロナ禍にあってもなお、多様な社会の課題を先取りしてチャレンジし、解決方法を工夫しながら、しなやかに実行している様子を示して下さいました。

「課題解決力賞」は、課題を明確に理解し目標を設定し、また課題の背景にある法制度や慣習など社会の仕組みの問題をも視野に入れて解決策を講じているかを評価します。そして、その成果を、データをもって具体的に説明できるか、さらに事業によってどのような社会への影響や変化をもたらすことができたか（アウトカム目標）を問うものです。

なお、課題解決のためには、市民、企業、行政など周囲の理解とサポートを得ながら、そして組織内の人材育成を図りながら継続して行動していかなければなりません。その意味で、この「課題解決力賞」もまた「市民性」や「組織力」の評価も併せて考慮し審査しました。

2. 審査結果

(1) ノミネート団体

「課題解決力賞」にご応募いただいた団体の中から、今回、次の5団体がノミネートされました。医療、子育て、国際協力の分野で、このうち2団体が今回初めての応募でした。

①「ア・ドリーム ア・デイ IN TOKYO」

今回が初めての応募でした。審査の過程では、亡くなってゆく子どものサポートも大事だが、長期療養を経てこれから生きていく子どものサポートが優先されるのではないかという意見も出されました。しかし、必ずしも社会的な効率性・功利主義の発想ではない課題にチャレンジすることに、NPOの存在意義があるのではないか、ということで意見が一致しました。遺された家族にとっても生きる力になっているという成果も伝えられています。

地域に根差した団体との連携事業計画や政治や行政への働きかけなど、今後の課題認識もきちんとできており、また中長期のアウトカム指標にも触れられている点も期待されます。

②「キヤンサーネットジャパン」

こちらが初めての応募でした。がん患者への治療情報やがんを取り巻く生活情報は、ネット社会の中でエビデンスのない情報で踊らされる傾向も、情報弱者も多いことを危惧し、専門家の協力を得てエビデンスに基づき、冊子、動画配信、HP や SNS、セミナーなど多様な情報配信を続けています。コロナ禍でも SNS では年間 100 万回の再生実績があり、社会的な理解促進にも一役を担っていると思います。

がん患者が増えてきている現状で、よりよい日常生活を送っていく個々人とその関係者のために大事な活動であり、オンラインなどで情報が届かない人々へのアプローチについても、今後様々な機関と連携して患者さんに寄り添う情報発信をしていくことを期待します。

③「子育て家庭支援センターあいくる」

核家族で孤立した子育てや地域との繋がりの希薄さが社会問題となっている中、地域に根差した多様な子育て支援事業を展開してきています。多くの地域市民や自治体や学校を巻き込みながら、丁寧に活動を行っていることは、共通の課題を抱えているであろう他の多くの地域の手本にもなると思います。できれば、その成果を活動数や参加人数だけでなく、地域の変化や影響力も今後把握して頂ければと思います。

また、活動資金を委託費に大きく依存せず、広げていくことも活動継続のために重要と思います。

④「テラ・ルネッサンス」

「すべての生命が安心して生活できる社会の実現」を理念とし、「地雷」「小型武器」「子ども兵」という課題に対して、現地での国際協力と国内での啓発・提言活動に、20 年間取り組んできました。大きな目標ではありますが、インターンの受け入れによる人材育成や、企業との協働により資金や物品のサポートを得て、着実に支援によって救われた人数も把握しつつ活動を進めている様子が分かります。

政策提言活動については、もう少し具体的な成果に対する目標が定められると良いと思います。そのためにはアウトカム目標をどのように定め、自身の団体が時系列的にどこまで取り組んでいくのかを把握する必要があると思います。

⑤「にじいろクレヨン」

東日本大震災から 10 年が経ち、被害が風化しつつある中、災害の 10 日後から、遊びやアートを通じて日常を安全安心に過ごせるよう子供の居場所づくりを継続し、いまでは、子供を見守るコミュニティが定着してきていることに敬意を表します。

子供の成長には時間がかかり、直ぐには成果が見えないことが多いと思います。その中でも、当事者が現在の事業を支える側として活躍していることから、その成果を垣間

見ることができます。できれば地域で育った子どもたちや住民にどのような影響があり変化を起こしてきたか、もう少し具体的に示していただければよかったですと思います。

(2) 課題解決力賞

審査会で協議を重ねた結果、「課題解決力賞」には、「キャンサーネットジャパン」が決定いたしました。

総合点ではノミネートの5団体は拮抗していたものの、「課題解決力」で最も高い得点を取った「キャンサーネットジャパン」が選ばれました。同団体は、ネット社会で患者たちが信頼性のない情報に踊らされることのないよう、また、情報弱者や社会的理解を促進していくことにも配慮して、エビデンスに基づくがんの情報を、多様な媒体で発信し続け、患者たちのより良い日常生活の実現を目指して成果を上げています。背景にある社会の問題点を捉えながら、その対策についてもきちんと把握できている点も、高い評価につながりました。

3. 今後に向けての課題

今回の応募は、全体的に新規の応募が多かったものの、課題の捉え方や解決策について独自のこだわりのある活動も多く見受けられ、興味深い内容でした。

残念ながら、コロナ禍で活動現場を拝見したりできず、文章で表現しきれなかったことも多かったと思いますが、きちんと文章でも説得力を持って表現することは、ボランティアや寄付者を募ったり、社会への理解を深めることにもつながる大事な力だと思います。また、基本的に「評価」は、団体が社会や受益者の視点を踏まえて、自らをきちんと評価する力を持つことが第一歩ではないかと考えています。

コロナ終息後は、これまで見えなかった社会の課題が見えてくるかも知れません。これからも、NPOらしいしなやかな感性や先駆性をもって、課題解決にチャレンジされていくことを期待しています。